

特別号

2018年2月7日

# JET 通信

発行：学校法人 JET 日本語学校  
JET 日本語学校後援会  
〒114-0023 東京都北区滝野川 7-8-9 3.4F  
TEL03-3916-2101 / FAX03-3916-5333  
E-mail info@jet.ac.jp

## 金美齡先生と JET の 30 年

1987年5月 学校法人設立準備委員会が発足。

1988年3月8日 東京都知事より学校法人柴永国際学園の設立が認可され、4月1日 JET 日本語学校が開校。台湾人学生1名で入学式。冲永嘉計理事長兼校長就任、柴田邦夫学園長、金美齡副校長、山崎琢磨事務局長。



↑開校式で挨拶する金先生(1988年4月)

1988年7月 中国人就学生81名が入学。さらに9月に65名、10月に82名、12月に24名が入学し、在籍数は一時270名余りに。

1988年8月頃 東京入国管理局の審査が厳格化され、ビザの許可率が5割以下に。いわゆる「冬の時代」の始まり。

1988年秋 **上海事件** (すでに日本語学校に学費を払い込んだにもかかわらず、ビザが発給されないため、上海の日本総領事館前で大規模なデモが発生した。)

1989年4月 金美齡校長に就任。

1989年5月 JET 日本語学校後援会設立。



←創立1周年記念パーティーでの金校長。右は冲永嘉計理事長、左は柴田邦夫学園長(1989年5月)



←卒業生に修了証書を手渡す金校長(1990年3月)

1990年8月 1988年の「上海事件」の余波で、JET 他15校が、上海市当局と朝日新聞から一方的に問題校扱いされたことを受け、金校長が記者会見を行ない、さらに週刊文春に8ページの反論記事を発表。これを機に、中国からの学生募集を徐々に制限してゆくこととした。



←上海市と朝日新聞に対し抗議の記者会見。(1990年8月、学士会館にて)

1990年11月 柴田邦夫理事長に就任。

1990年11月 日系ブラジル人向けの夜間クラス開講。

1991年1月 会話用テキスト『ENJOY YOUR DAYS IN TOKYO』発行。

1992年4月 横手房栄事務長に就任。(このとき在籍就学生数は54名。経営の危機的状況にあった。)

1992年8月 事務所を1階から3階に移転し、教室は3階から5階の3フロアのみを使用することに。(それまではビル全館を使用していた。)

1992年秋 金校長30数年ぶりに台湾に帰国。

1993年3月 JET 通信創刊。香港の学生、張仲華さんのデザインで校旗完成。金校長がテレビのワイドショー番組にデビュー。

1993年4月 赤羽寮オープン

1994年3月 台湾の東呉大学と淡江大学で「日本文化と言語」と題する講演会を開催。

1994年4月 韓国人学生の本格的受け入れ開始(15名入学)。

1995年1月17日 阪神淡路大震災

1995年3月20日 地下鉄サリン事件

1995年7月 第1回校内スピーチ大会

1996年4月 震災やサリン事件の影響で、在籍者数が56名にまで落ち込む。



←金校長はよく自宅に学生たちを招き、本当に美味しい手料理で、元気を与えていた。(写真は1996年)

1997年7月 アジア通貨危機

1997年10月 蓮根寮オープン(初の個室タイプ)

1997年11月 金美齡理事長就任

1999年10月 在籍者数が153名(短期生含む)まで回復

2000年4月 周英明理事長就任、金美齡専務理事、井上靖夫校長。進学1年コースと進学1.5年コースが準備教育課程として文部省に認定される。日本語基礎科の年間授業時数を880時間に増やし、日本語進学科とともに全日制に。

2001年9月11日 アメリカ同時多発テロ

2002年4月 日本語教師養成講座開講(6か月、実践トレーニングの230時間のコース)



↑日本語教師養成講座では毎期、公開授業をおこない、金先生が講演した。(2003年)

2003年3月 台湾大学の日本語学科で、「ことば・言葉・コトバ」と題する講演をおこなう。

2003年春 SARSの流行



←台湾などで開かれる日本留学フェアに毎年参加。卒業生とともに自ら学校の説明や留学相談に当たった。(写真は2004年8月、台北にて)

2003年11月の日本留学試験(EJU)で、マカオの学生が世界最高となる378点を記録。その後2010年、2012年にも世界最高点の学生を3名輩出。

2004年10月 タイ政府派遣留学生(ODOS)の第1期生20名受入れ。2006年3月、全員が大学進学を果たす。

2004年10月期以降、中国からの学生受け入れはゼロに。

2005年4月 金美齡理事長に再就任。



←「たけしのTVタックル」に出演。左は舩添要一氏。



↑「朝まで生テレビ」にもよく出演し、激しいバトルを繰り返した。

2006年10月 タイ政府派遣留学生(ODOS)第2期生20名受入れ。2008年3月、全員が大学進学を果たす。

2008年4月 小池百合子環境大臣の依頼により、水没の危機にあるツバルからの学生2名を後援会奨学生として受入れ。

2008年秋 リーマンショック。この頃より特に韓国の学生が毎年2割ずつ減少。

2009年春 新型インフルエンザ流行



↑ツバルからの留学生受入れで、斉藤鉄夫環境相から感謝状を贈られる金理事長。左は小池百合子元環境相とツバルのティロウさん。右は学生のホストファミリーを引き受けた越野充博理事夫妻。(2009年6月、環境大臣室にて)

2010年5月 「事業仕分け」により、日本語学校の審査認定の仕組みが変わる。

2011年3月11日 東日本大震災により、入学辞退者相次ぐ。

2011年4月25日 新学期を約3週間遅らせ、在籍者数45名(留学38名、その他ビザ7名)、5クラスでスタート。

2012年10月 タイ政府派遣留学生(ODOS)第3期生10名受入れ。インドネシア人留学生本格的受け入れ開始。(8名入学)



↑クールジャパン推進会議で安倍首相と。日本のスイーツ展を台湾で開催することを提案し実現させた。(2013年)

2014年4月 越野充博理事長に就任。井上校長は専務理事を兼任。



2000年から理事を務める越野充博氏に、理事長をバトンタッチ。→

2014年12月 タイ政府派遣留学生(ODOS)第4-3-1期生8名受入れ、2016年4月に全員が大学進学を果たす。

2014年10月 金美齢名誉理事長が東京都の教育功労者として表彰される。

2015年10月 タイ政府派遣留学生(ODOS)第4-3-2期生4名受入れ、2017年4月に全員が大学進学。

2015年10月 留学ビザの在籍者数だけで定員の150名に達する。(2006年10月以来9年ぶり。)

2016年7月 日本語学校の新たな告示基準(審査基準)制定、2017年8月施行。

2017年11月 金美齢名誉理事長が日本語と日本文化普及の功績により旭日小綬章を受章



金先生は1988年に副校長・理事として、学校法人柴永国際学園JET日本語学校の創立に加わり、以後校長として1989年から2000年までの11年間を務め、専務理事として5年間、理事長として通算12年間にわたり日本語教育および日本文化普及のために尽力してきました。2014年から名誉理事長。

## 30年間の修了生 2090人

大学等への進学は1242人に

1988年4月に学生を受け入れ、1990年3月に最初の修了生73名を輩出して以来、2017年3月までに2,090人が修了しました。(短期の終了者は除く。)

修了者のうち日本の高等教育機関に進学したのは合計1,242人に上りました。進学先の内訳は、大学院が186人、大学が504人、専門学校が506人、その他が46人でした。

## 日本語能力試験(JLPT)の成績

2010年に施行された新しい日本語能力試験で、JETの学生の記録を振り返ります。(満点は180点、合格点は100点。)

実施年月	校内最高点	校内合格者数	合格率(%)
2010年	180(3人)	27	49.0
2011年	180	15	55.6
2012年	175	20	50.0
2013年	180	14	41.1
2014年	180	37	69.8
2015年	164	30	55.6
2016年	159	26	57.8
2017年			

## JET 日本語学校の現在

○理念 日本語教育を通して、日本のよき理解者育成と、留学生の全人的な成長を図る。

○定員 150名(全日制のカリキュラム)

○授業時間 「進学クラス」年間1000~1120時間(9:00~16:40)、「日本語クラス」年間880時間(9:00~15:45)

○在籍数 145名(進学クラス30名、日本語クラス115名)

○国籍分布 台湾87名、インドネシア29名、マレーシア9名、タイ8名、香港6名、韓国2名、その他(アメリカ、ロシア、ミャンマー、フランス)

○教員数 専任7名 非常勤6名

○卒業後の進路(2016年度の卒業生) 大学20、大学院7、専門学校22、国内就職11、帰国20 他

※卒業生の約半数が日本での進学。

○アルバイトをしている学生 10名

○アクティビティ 大学生との交流(年間のべ20回以上)、小学校との交流、高校との交流、日本の伝統芸能(歌舞伎、能)、美術館・博物館、オーケストラコンサート、防災訓練、ハイキング、ホームステイ、スキー旅行、富士登山、専門学校の体験授業、相撲・野球観戦、茶道体験、北区や板橋区の文化交流行事、花火大会、パーティーなど。

## 金美齡理事長 2014年3月の 卒業式祝辞 (抜粋)

卒業おめでとうございます。実は私も今日卒業なんです。皆さんと一緒に、JET 日本語学校を卒業します。

昨日までは曇った、陰鬱な天気でした。今日目が覚めると、私のオフィスから青い空に真っ白な富士山が見えたんです。富士山が見える日は、とても幸せな気分になるんです。

ですから今日はこのめでたい、本当に天気の良い日に卒業式を迎えることができ、とてもうれしく思っております。

実は3月1日に、井上校長の故郷福井県のあわら市というところで講演をしてきました。先ほど校長先生は、200年前の福井出身の歌人の歌を紹介しました。日本が貧しかったころ、福井県が貧しかったころ、みんなが何に喜びを感じ、何を幸せに思っていたのでしょうか。200年後の現在、日本は実に豊かになりました。

福井県選出の国会議員、稲田朋美さんは大臣をやっていますが、講演の日、私に会うためにわざわざ会場までやってきました。なぜ彼女とそれだけ親しいかと言いますと、いま日本は「クールジャパン」を掲げています。「クールジャパン」というのは、世界中に日本のいいものを紹介しようという、そういう催し事なんです。私は「クールジャパン」の民間の推進委員の一人として色々な提言をしてきたんですが、いま日本でパンやスイーツは世界一なんです。パンやスイーツというのは西洋から来たものです。でもそれを日本は世界一のレベルまで引き上げていった。これはつまり、教わったものだけでも、大国から物を入れたんだけれども、知識を取り入れたんだけれども、しかし日本はそれを世界一にしたということです。

井上校長も得猪教務主任も、私の早稲田大学の教え子です。日本語で「出藍の誉れ」というのですが、皆が私を超えてどんどん前に進んでいます。あなた方もここを卒業して、どんどん先輩を超えて、私たちを超えていってください。今年は何人も早稲田大学に入学するようですが、私たちの後輩になるあなたたちは、私たちを超えて前に進んでほしい。そう強く願っております。

日本は、そういう素晴らしい国なんです。貧しかった時代、食べ物もほとんどなかったような時代から、今やすべてが、ある意味では世界的な水準、世界一の水準になっている。

これは日本人の努力、日本人の勤勉さ、日本人の勉強好き、何事も一生懸命学ぶ姿勢によるものです。「天は自ら助くる者を助く」。これは私のモットーでもあります。みなさんは日本に来て、日本がどういう国で、日本人がどうしてこんなに世界的な水準までいろいろなものを研究して到達したかってことを、学ばなくてははいけない。

スマホをこうやって年がら年中やっていたり、ネットのゲームを年がら年中やっているのは、とても残念なことだし、もったいない。ここに来たからには、この現場を見て歩く。日本を体験する。日本をエンジョイする。何のためにあなた方は高いお金を払って、ご両親から大変沢山のお金を支給してもらって、ここまでやってきたのか考えてください。なぜ日本というのはこういう国になったのか。なぜ日本はこんなに発展したのか。なぜ日本のいろんな技術は世界的な水準になったのか。西洋から来たパンとスイーツがいまやどうして世界一なのか。そういうことを自分の目で確かめ、自分が体験する。そのための日本留学なんです。そのためにあなた方はここにいる。母国語ばかりしゃべっているんじゃないくて、スマホばかり見ているんじゃないくて、ネットばかりやっているんじゃないくて、外に行く！自分の目で確かめる！体験する！

私は今でも携帯電話を持っていません。そもそもがメカ音痴だということもあるんですけど、私は今もパソコンも触れないし、携帯電話も持っていません。でも私はきちっと仕事をこなして、毎日ちゃんと自分の約束を守ってやっております。便利なツールというのは上手に使うものであって、それに埋没することではありません。今の若者たちはどうしてもそういうものに頼り切ってしまうと、小さな小さな画面にとらわれていることがあると思います。もったいない。

日本は素晴らしい国です。私は55年日本にいますけれども、自分の体験から言って日本は本当に素晴らしい国だと思います。もちろんすべての国に長所と短所があるように、日本にだって欠点があります。でも日本は間違いなくあなた方にとって、外国人にとって学ぶところがいっぱいある国です。私自身の体験で55年日本に住んでいて、そういう国だということを確信しております。ですから皆さんにも是非日本にいる間は日本のいいところを見て歩く努力をしてください。欠点は日本人が直せばいいんです。あなた方がとやかく言うことではありません。あなた方は何を学び、何を見て、何を身に付けて帰るか、それが大切なのです。

ここは皆さんの母校です。今後、うれしいことがあっても、悲しいことがあっても、大変なことがあってもどうぞお寄りください。私自身も理事長はこれで卒業ですけれども、私自身も生涯、生きている限り、JET 日本語学校は常に私の心の中に存在しております。

あらためてもう一度、卒業おめでとうございます。



←理事長として最後の祝辞を述べた後、学生代表から花束を贈られる。